

## なぜ子どもは熱中症にかかりやすい？

## \*大人より暑さに弱い



子ども（乳幼児・幼児）は体温調節機能が未発達です。特に汗をかく機能が未熟で、大人と比べると暑さを感じてから汗をかくまでに時間がかかり、体温を下げるのにも時間がかかってしまうため、体に熱がこもりやすく体温が上昇しやすくなります。全身に占める水分の割合が大人より高いため、外気温の影響を受けやすくなっています。気温が体表温度より高くなると熱を逃がすことができず、反対に周りの熱を吸収してしまう恐れもあります。

## \*照り返しの影響を受けやすい



子どもは体重に比べて体表面積が広い分、気温など周囲の環境の影響を受けやすいと言えます。また、幼少期の子どもは大人よりも身長が低い為、地面からの照り返しの影響を強くうけます。このため、大人が暑いと感じているとき、子どもはさらに高温の環境下にいることになります。たとえば大人の顔の高さで32℃の時、子どもの顔の高さでは35℃程度の感覚です。

## \*自分では予防できない

子どもは自らの体調変化を訴えられないことがあります。屋外でずっと遊んでいると、その楽しさに夢中になってしまい、身体に異変が起きていても気づかないのです。したがって、異変がないか、周囲の大人が気にかける必要があります。

## 夏に流行しやすい病気 一第2弾 ヘルパンギーナ

**症状**：2～4日の潜伏期を経過し、突然の発熱に続いて咽頭痛が出現し、咽頭粘膜の発赤が顕著となり、口腔内、紅暈（読み方：こううん、皮膚が部分的に充血して赤く見えること）で囲まれた小水疱が出現する。発熱については2～4日間程度で解熱し、それにやや遅れて粘膜疹も消失する。発熱時に熱性けいれんを伴うことや、口腔内の疼痛のため不機嫌、拒食、哺乳障害、それによる脱水症などを呈することがあるが、ほとんどは予後良好である。

**原因**：ウイルスの感染によって起こる感染症

**治療法**：特異的な治療法はなく通常は対症療法のみであり、発熱や頭痛などに対してはアセトアミノフェンなどの解熱鎮痛薬を用いることもある。時には脱水に対する治療が必要なこともある。

**予防法**：特異的な予防法はないが、感染者との密接な接触を避けること、流行時にうがいや手指の消毒を励行することなどである。

病児/病後児保育利用基準

病児：全身状態が落ち着いていれば発症後1日目から

病後児：急性期経過以降

## ○病児・病後児保育利用実績

7月1日～7月31日 合計44件（手足口病、急性上気道炎、中耳炎、咽頭炎、ウイルス性胃腸炎、RSウイルス感染症）

## ※お願い

- ・キャンセル待ちが増えてきています。不在時は必ず留守電になっておりますので、キャンセル時はできるだけ早く連絡をして頂くようお願い致します。
- ・初回利用時は、送迎する可能性がある方の顔写真（家族写真等でも可）の持参をお願い致します。



## ～豆ちしき～

## 動物に触ったら

- 動物に触れた後に、「手を洗いなさい。」と言われたことがあると思います。
- では、手を洗わないとどんな危険があるのでしょうか？
- その一つに、「サルモネラに感染する恐れ」、があります。
- アメリカの科学者サルモンさんが1885年に発見したサルモネラ菌ですが、感染すると下痢、発熱、腹痛が引き起こされます。
- 人によっては下痢があまりにもひどく、入院が必要になることがあります。
- 特に子供たちはサルモネラにもっとも罹患しやすく、5歳未満の幼児での頻度はそれ以外の年齢層での頻度の約5倍高いことが知られています。
- サルモネラはヒトや動物の腸管に住んでいる菌なので、動物の糞に汚染した食品を食べることによってヒトに伝播します。
- もちろんペット（特に下痢しているペット）の糞便にも含まれていることがあるので、ペットやペットの糞に触れた後に手を洗わないと感染する恐れがあります。
- 特に、亀、トカゲ、蛇などのハ虫類では皮膚もサルモネラに汚染されています。また、鶏の雛や若鶏も糞便にサルモネラをもっていますので、その環境や体表面が汚染されている事があります。
- 動物に触れた後には手を洗いましょう。

触ったら手を洗ってね。

